

5.15 沖縄平和行進に参加して

関西地方阪神支部
青年部副部長 村尾 祐紀

今回、阪神支部青年部として第46回5・15沖縄平和行進に参加させていただきました。今回の平和行進は阪神支部からは初参加の私一人で、全国規模の活動に参加させていただくのも初めてだったので期待と不安が入り混じっていたものの、関西地方メンバーをはじめ大勢の方が気さくに接していただいたお陰で、初日から皆さんと打ち解けることができました。

私が今回の平和行進全体を通して強く感じた事は、今、日本は再び戦争を起こそうとしている事、そうした現実から私たち国民は決して目を背けてはいけない事です。視察で訪れたひめゆり資料館では、戦争の為に労働を強いられ、戦闘に巻き込まれ命を落とした未来ある学生全員の名前が記されていました。

名前を刻まれた若者の中に、戦争で亡くなることを望んでいた人は誰一人としていません。

しかし、いざ戦争が勃発すると真っ先に犠牲になるのは、先頭の最前線に立たされる若者です。だからこそ若者が団結して声を上げ、反戦平和の意思表示を明確にするべきだと感じました。

その意思表示の一つが今回の平和行進に参加することだと思います。参加したメンバーも私自身もこの平和行進には様々な思いがありましたが、世界から戦争が無くなる世の中にしたい、人種や過去に囚われず全ての人々が互いに手を取り合える世界になってほしい思いは、皆同じだったので本当の意味で団結した行進になったのではないかと思います。

1945年8月15日に終戦を迎えてから、戦争を経験した人たちによってその過ちと二度と戦争をしてはいけない教訓が語り続けられていました。

しかし、現在は戦後に産まれた年代の人々がこの歴史を語らなければいけません。かつて先人たちがそうしたように、次は私たちが自分の子どもに戦争という過去を正しく伝え、再び日本が戦争を起こす事のない、世の中にする事が私たちのこれからのミッションです。

そのためには実際に地上戦の跡地や米軍基地のある沖縄に実際に足を運び、見て、聞いて、学ぶことこそ戦争を自分事として考え、反戦平和を実現する第一歩だと思ったので、今回の経験を生かして平和な世の中を実現するために、一人一人が取り組めることを全力で取り組んでいきたいと思いました。

最後に、受け入れから行程の段取り、BBQ 懇親会の開催に至るまで各方面で様々な対応を下さった沖縄地方本部の皆様、本当にありがとうございました。